【参考資料４】

新潟市障がい福祉課
平成 26 年 9 月 18 日
第 11 回条例検討会資料

正道委員提出資料

9 月 13 日（土）と 14 日（日）に、富山市で行われた「ぜんせいれん全国大会」へ参加してきました。「ぜんせいれん」とは「全国精神障害者団体連合会」の略で、精神障害者が、精神障害者のために、精神障害者自身の要求や願いを分かち合い、その実現にむけて自分たちが活動する当事者活動を、当事者の運営で行おうと 1993 年 4 月に結成された連合会です。

「地域にひろげる障害者の絆」がメインテーマでした。

私は分科会「障がいを持って働くこと」に参加しました。

「精神障がい者だって働きたい!　精神障がい者の就労が増えているとはいえ、まだまだ。「働く」とは何か。できる事は何か。」を議題として、参加者の発言で分科会は進行されました。

その中で印象に残っているものを書き出しました。

・調子が悪くて何も出来ない時には、薬を飲むことが自分の仕事だと思うことにしているという発言がありました。

そして、それを受けて別の方が、私は社会に何も貢献していない。「生かされている」という気持ちで生活している、と発言されました。

この「生かされている」という発言は、当事者で症状が重い方ほど、そう思っているようです。

市の検討会でも「生かされる」「生かされている」という表現が取り上げられましたが、当事者の方のほうがそういう思いが強いのか、と発言を聞いて思いました。

別の話題です。

ある方が「行政が、障がい者向け（三障がい一緒だと思います）の働く場所（例として工場）とグループホーム作り、障がい者は住まいと就労の心配をしなくて良くなると良い、という発言がありました。

そしてその意見と反対の「大きな建物はいらない。自分たちは地域の中で健常者の方と一緒に暮らしたい」という発言もありました。

同じ精神障がい者でも、考え方はそれぞれ違うのだな、と聞いた感想です。ここに健常者、行政が入ると、また違った意見が出てくると思います。

NPO 法人にいがた温もりの会　正道 沙織